

地域のしくみづくり検討・検証委員会 第5回会議記録

- 日 時 平成23年12月19日（月）15時00分～17時10分
- 場 所 市役所5階市民サロン
- 出席委員
- | | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 委員長 | 日高 昭夫 | 副委員長 | 関谷 昇 |
| 委員 | 松川 正 | 委員 | 文入加代子 |
| 委員 | 平川 茂光 | 委員 | 恩田 忠治 |
| 委員 | 荒 久美子 | 委員 | 岩橋 秀高 |
| 委員 | 榎本 孝芳 | 委員 | 河野 静雄 |
- 傍聴者 1名
- 事務局
- | | | | |
|--------|-------|----------|-------|
| 市民担当部長 | 小沢 邦昭 | 市民担当部審議監 | 小菅 恒夫 |
| 地域振興課長 | 鈴木三津代 | 協働推進課長 | 佐藤 亮一 |
| 地域振興課 | 関 聡 | 地域振興課 | 山内 将 |
- 議 題
- (1) 中間答申以降の経過説明
 - (2) 委員会への再諮問について
 - (3) 今後の進め方について
 - (4) その他

※配付資料

- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会第5回会議次第
- ・第5回会議資料

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(事務局)

地域のしくみづくり検討・検証委員会第5回会議を開始する。

(委員長)

- ・傍聴1名の入場を承認してよろしいか。(委員了承)入場を許可する。
- ・中間答申に対して様々な角度から、ご議論いただき、その後のスケジュールに従って進めていくにあたり、いくつか課題が出てきた。
- ・中間答申後のスケジュールの変更を余儀無くされた。今日は、今後の進め方についてご議論いただきたい。議題(1)中間答申以降の経過説明ならびに議題(2)本委員

会に対する再諮問について事務局から説明を求める。

2 議 題

(事務局)

- ・ 9月2日に中間答申をいただきありがとうございます。地域の仕組みは必要な制度であると考えています。みなさまのご苦勞と制度にかける想いとともにも実現したいと想っているのでもよろしくお願いいたします。

(事務局)

- ・ 中間答申以降の経過について説明します。(以下、説明資料の項目)

【これまでの経過】

- 設置
- 会議経過
- 中間答申

【予定した意見募集のスケジュール】

- 市民へ公表と意見募集(10月1日(土)～31日(月))
- 市民向け説明会(講演会)の開催
- 地区検討会議の開催(地域の意見を聴く会)

【意見募集中止にいたる経過】

- 関係者への説明経過
- 関係者の反応
- 意見募集中止の決定(9月12日)

【中止後の対応】

- 地域のしくみづくり検討・検証委員会(第5回12月19日、第6回は未定)

【再諮問】

- 地域の仕組みづくりの進め方について

(委員長)

- ・ 事務局から中間答申以降の経過説明と中間答申以降の進め方について、ならびに当委員会への再諮問についての説明があった。
- ・ 副委員長も心配されていたように地域での課題を解決するための取り組みや市政協力委員やその背景にある町会・自治会などの活動について時間をかけて議論することが必要であったと思う。実態と合わない形だけのものができても意味がない。
- ・ 課題解決するための担い手を広く求めていく視点も同時に必要である。
- ・ 今までの議論の実績の上に立ってより現実的な方向を模索していきたい。
- ・ 質問、意見はあるか。

(委員)

- ・ 振り返ってみると拙速に進め過ぎたと感じている。
- ・ 仕組みに関係の深い、市政協力委員制度についての実態把握と、現在も同制度がある市町村と制度を廃止した市町村の調査をしてみたい。

(委員)

- ・市政協力委員制度については、若干の見直しの時期に来ていると感じていた中、地域の仕組みづくりの話があった。過大解釈であるが、この仕組みは、将来的に全国規模の自治組織につながるものと考えていた。
- ・今後の仕組みづくりには、地区長も加えて対応したほうが、スムーズに進歩していくと考える。

(委員)

- ・中止に至る経過の説明で地域の仕組みのあり方に対する意見よりも検討の進め方への批判があったということであるが、逆に進め方についての提案的なものは無かったのか。非常にタイトな計画であると感じていたが、そのようなことに対する具体的な意見はあったのか。
- ・私は、団体の会長も背負っているが、この会議には個人の立場で私自身の度量、理解の範囲内で判断して意見をし、参加している。

(事務局)

- ・仕組みの内容に対する部分には至りませんでした。町会・自治会や市政協力委員がどのような役割を果しているのか等の整理がない中で地域の問題は地域で解決する仕組みを出したために戸惑いと反発を受けてしまったと考えています。

(委員)

- ・社会福祉協議会や子育て関係のNPOなどの地域で活動する人たちの背景をいろんな形で勉強しながら、当委員会や事務局と情報を共有し合って進めていけばよいのではないか。

(事務局)

- ・タイトなスケジュールの中で議論をスムーズに進めるために市民や各団体にそもそも地域の仕組みとは何かを伝えるためには、たたき台を示した方が、よりイメージを理解していただけるものと考えていました。
- ・試行については、原型を作ったうえでよりよいものに形を変えていくことを考えていました。

(委員)

- ・私はどこの団体にも属していなく、個人といくつかの市民活動をしている。地域の仕組みづくりは、根本的に地域の合意形成を作る仕組みであるにも関わらず、まず地域で話しをする合意形成ができなかった。
- ・改めて市長から今後の進め方についての再諮問を受けたのであれば、これまでの現状の関係性を考慮し、さまざまな人から意見を聞くなど合意形成を積みながら進めていくべきと考える
- ・市政協力委員の見直しの話があるが、かつての家族、家、村、町の変化、町会に入らない市民の問題なども含まれるものである。

(委員)

- ・私は自分自身の活動の経験から意見を述べて役に立ちたいと考えこの委員会に参加し

ている。他の委員も同様に別の角度から意見を出してここで地域の仕組みづくりができていくものと思っていた。ところが進め方の問題でスケジュールが変更となることなどは理解し難い。

- ・仕組みが動き出して、市民や団体同士が連携して行き、しばらくすれば時代に見合わない古い体制は自然と変化していくのではないかと思う。

(委員)

- ・地域の活性化について末端の現状があまり取り上げられない中で地域の仕組みづくりが進められていたように思う。現在、地域活動は誰が担っていて、どんな活動をしているのかについてももう少し時間をかけてもよかったと思う。

(副委員長)

- ・現状の中に課題を洗い出しながら進めていかないと本当の意味で定着していかない、担い手の方々に浸透していかないといくら制度を作っても持続してもいかない。今後はこの辺りを最大限に配慮していく必要がある。事務局での想定外の話しが一人歩きするなどしたために政治問題になってしまった。コミュニティの部分は非常にナーバスな部分もあるので政治問題とならぬように注意するべきであった。
- ・単独の団体で地域を担うのは無理なことで限界がある。お互いに問題・課題を確認することにより現状が見えてくると思う。
- ・少子高齢化が進み、財政状況が厳しい中で活性化や負担軽減の考えがあるが、現場目線から検討していけるかが問われている。

(委員長)

- ・議論の内容が議題の3にシフトされてきましたので今後の進め方について市長が意見を求めておられますので議題3について事務局へ説明を求める。

(事務局)

- ・進め方の反省点であるとか、これからの仕組みづくりの事前準備として必要であると思われる点を整理したものであるので議論の参考にしていただけたらと思います。

今後の進め方について（協議メモ）

(1) 中間報告書までの進め方の検証

- ①ただき台を示したが押し付けとの誤解
- ②地域の仕組みの意図や必要性についての理解不足

(2) 仕組みづくりの事前準備（条件整備、合意形成など）

- ①地域のまちづくりにおける町会・自治会の位置付けの明確
- ②有効性と実現性が実感できる成功モデルの創出必要性

(3) 松戸版地域の仕組み案の検証

- ①松戸版地域の仕組みを提案したが、更なる検討の必要性

(事務局)

- ・協議メモの意図についてであるが、最終報告書は次の第6回会議までの意見の取りまとめをお願いします。中間報告書からどの部分を追加修正するかを協議いただきたいが、松戸版地域のしくみの中身の修正は、現時点で意見募集をしていないため材料が

ないのでペンディングでよいかと思えます。仕組みの提案が受け入れられるような環境整備、条件整備を来年度以降どのようにしていくのかを最終報告書に盛り込んでいただきたいと思います。

(委員長)

- 仕組みづくりの方向性を考えると政治マターになるべくならないようにしてきたつもりである。町会・自治会と市政との関係の間に仕組みが確立されている市政協力委員制度が挟まっているが、この委員会で直接そのあり方も含めて最初から取り上げるというのは非常に難しい。政治的な争点になり得ると考え、意図的に迂回したところが逆に反発にあった原因の一つであったように思う。
- 松戸の地域のしくみのあり方を考えると町会・自治会と行政とのパートナーシップを行っていく上では、市政協力委員制度も正面に据えて将来のあり方を議論しなければならない。現在の制度の課題整理というだけではなく、地域の中で十分にニーズに対応しきれていない空白な部分の問題との関連についても議論をしないといけない。そのうえで町会・自治会の役割も改めて当事者を含めた議論を行うことはさげられないと思う。当事者である地区長や市政協力委員から課題があるとされる制度がこのままでよいとは思っていない、将来どうすべきか検討する時期にきていると言われたことは、非常によい機会である。
- サロンの部分とその上に被る広域的な部分などが重層的になっている仕組みが解りづらく、一番現場に近い部分が見えづらかった。実際のコミュニティ活動である地域のニーズに則した取り組みが形になって現れてこないと提案している仕組みとの関連性が見えてこないなのでその辺を時間をかけて今後体制を作っていくことが必要だと思う。

(委員)

- 既存の団体を拒否したり、団体の運営に対して意見をすることは、この委員会で言うことではないと思う。町会・自治会のあり方ならばよいが、市政協力委員内部からの見直しの必要性の意見がでてきていることについては、市政協力委員制度の中で協議することであり、この委員会で言うことではない。

(委員長)

- 議論している仕組みの中では、市政協力委員や社会福祉協議会などは、メンバーであり重要な役割を担うわけであるが、団体そのものについて、この委員会で議論することは違和感があるし、別の問題である。各団体が検討した内容をこの委員会に反映することは必要であるかと思う。

(委員)

- 地域の団体がさまざまな課題を解決していて、いろいろやってみただけで解決できない場面にあたったときにこの仕組みがあるよと言うならば受け入れ易かったのだろうが、最初から地域の課題を解決する仕組みありきで説明を行うとなるときつと拒否反応を起こすと思う。地域での課題解決を行う延長上にこの仕組みがあるべきだと思う。
- 仕組みを動かすときには、現場と全体をプロデュースする機能が必要であると思う。

(委員)

- ・仕組みの理屈やモデルはよく解るが、実際に地域での問題がどのように上がってきて、どのように解決されるのかが、従来の町会・自治会が行ってきたこととどこが違うのかなどの実例をあげて説明できれば理解されやすかったと思う。また、団体に所属していない人もいっしょに議論できる仕組みが理解されていなかったと思う。

(委員長)

- ・中間報告で示してきた枠組み自体は、間違っていない。しかし、それを具体化していくときには、実際のニーズに即した活動やどのような課題が地域にあるのかなど、それらを目に見えるかたちで情報収集したり、活動をモデル化したり、そのような作業が欠けていたと思う。現状の地域での課題に掘り下げて対応を考えていく仕組みとの関係を検証していくことによって、この仕組みが必要とされるような像が目に見えてくる。来年度以降の進め方については、この欠けていた部分の検証は避けては通れない。
- ・町会・自治会、市政協力委員制度との関係については、活動分野が限られている他の団体とは違う性質があり、町会・自治会、市政協力委員制度は、懐が深く、そのときに応じた非常に幅の広い活動をしてきたという歴史がある。そのことからいままでの活動とどこが違うのか、歴史や成果を踏まえないで、置き換えられるのではないかと誤解などからくる反発が出たのだと思う。社会福祉協議会や民生委員児童委員のあり方についてこの委員会で議論はできないが、市政協力委員制度の検証とは、無関係では困るし、この委員会との連携が必要であるので検討にはこの委員会からメンバーが参加することが望ましいと考える。

(委員)

- ・一言で町会・自治会というが活動のレベルはさまざまであり、全市的な課題の抽出と言ってもかなり困難であると思う。

(委員長)

- ・町会・自治会のトータルな活動を把握したものはあるか。

(事務局)

- ・ありません。

(委員長)

- ・それは、問題である。予算の問題も関係するが、きちんとした議論をするためのベースとなる町会等の調査が必要と考える。
- ・他の自治体のケースはどうか。

(副委員長)

- ・このように行いたいというところから入ると合意形成ができないことがある。程度の違いはあるが、事前の実態調査として資料やデータを揃えることはしている。
- ・町会・自治会、市政協力委員の活動のリストアップはされているか。

- ・地域活動の差についても情報を持っていないと出来ている町会のみ情報では、現状把握がずれてしまう。どのようなことが上手くいっているのか、上手くいっていないのか、それらの理由や原因はなにかについて調査が必要である。
- ・まずは、当事者からの声を聞きながら現状を洗い出していくことは、最初に始める部分である。しかし、当事者目線だけでは見えないこともあるので外から同時に見る目も被せていかないと本当の意味での客観的なあぶり出しにはならない。

(事務局)

- ・補助金に関係する場合は、総会資料を提出させているので活動項目は確認できる。

(委員)

- ・さきほど政治絡みの話があったが、最後までその部分が壁になるのではないかと心配である。

(委員長)

- ・政治的な問題になるというのはすべて悪いわけではなく、推進していくときにはサポートとして必要となるなどの両面をもっている。コミュニティの問題というのは現実的にいろいろな課題を持っていて事実を積み重ねていき、それをベースに議論するというのは、政治的に割り切って断言できない、事実というベースがきちんとしていれば、政治に左右されるということにはならない。我々がベースをしっかり固めて再出発し、政治的支持が広がればかえって推進力にもなる場合もある。

(副委員長)

- ・逆風を受けないようにするには、問題を客観的にあぶりだすこと。現実的にある問題をまずしっかりと確認する。それがないと、こうしよう、ああしよう結果的に政治問題になってしまうことがある。遥か手前の時点で今の地域の実情はどうか、それぞれの団体の実情はどうか、団体間の関係はどうか、地域と行政との関係はどうか、ということの一つの問題状況として客観的にあぶりだす。それが少なければ少ないほど悪い意味での政治問題になってしまう。この問題をどうするのか、みんなが考える土俵を作らないことには結局生々しい話しになってしまう。

(委員長)

- ・町会・自治会も含めて現状について調査し、情報を共有していくことがまず、今後の進め方の中で第1のステップとして非常に重要であるということ。大学の機関であればある程度自由に調査ができるが行政がどこまで調査できるのか検討しなければならない。
- ・町会・自治会のあり方はこの仕組みの将来像とかなり密接に関わっているのでそこがどんな形であれ、再検討していくという課題がある。このあたりは共通認識でよろしいか。
- ・政治マターの問題は、市長から地域の仕組みづくりを検討しなさいと承っているので、それ自体が政治的なマターであるわけであり免れることはできない。しかし、これをスタートさせるときの基本的な考え方として将来の松戸市民にとって必要な仕組みであることは間違いなく、新しい仕組みを作るときに摩擦があったにしても10年先、

20年先を考えたときには、この仕組みをなんらかの形で定着させていく必要があることは間違いない。

- ・今後の進め方についての市長からの再諮問が出ていますので今回のみなさんの意見を反映させた形とすることでよいですね。（事務局は確認）

（事務局）

- ・中間報告書に経過も含めて、今後の進め方のみなさんの意見を追加し、もしかしたら結論を一本にするのではなく併記のかたちをもって第6回会議の最終報告書とし、また、最終報告書は次の委員会へつながるものにしたいと考えています。
- ・町会・自治会と市とのあり方の検討についての体制は、委員長からは、別の機関として検証してはどうかと提案をいただきました。次回に議論しなければならないと考えています。

（委員長）

- ・次の議題（4）その他について事務局の説明を求める。

（事務局）

- ・第6回会議の日程を調整します。当所、来年1月16日を予定していましたが、最終報告書案を1月末までの作成し、2月上旬に委員のみなさまにご提示してご意見をいただきたいと考えています。できれば2月20日（月）または21日（火）に開催させていただきたい。市長の出席も予定しています。

（委員長）

- ・いかがですか。第6回会議は、平成24年2月20日（月）15時からで決定する。

3 閉 会